

# NEOL

光と影が交錯する、幽玄な異生物の世界。オランダ人画家クリス・ベレンス個展「THE GREAT BELOW」



Mascotte, 2024, 32 x 23 cm, Mixed media on panel

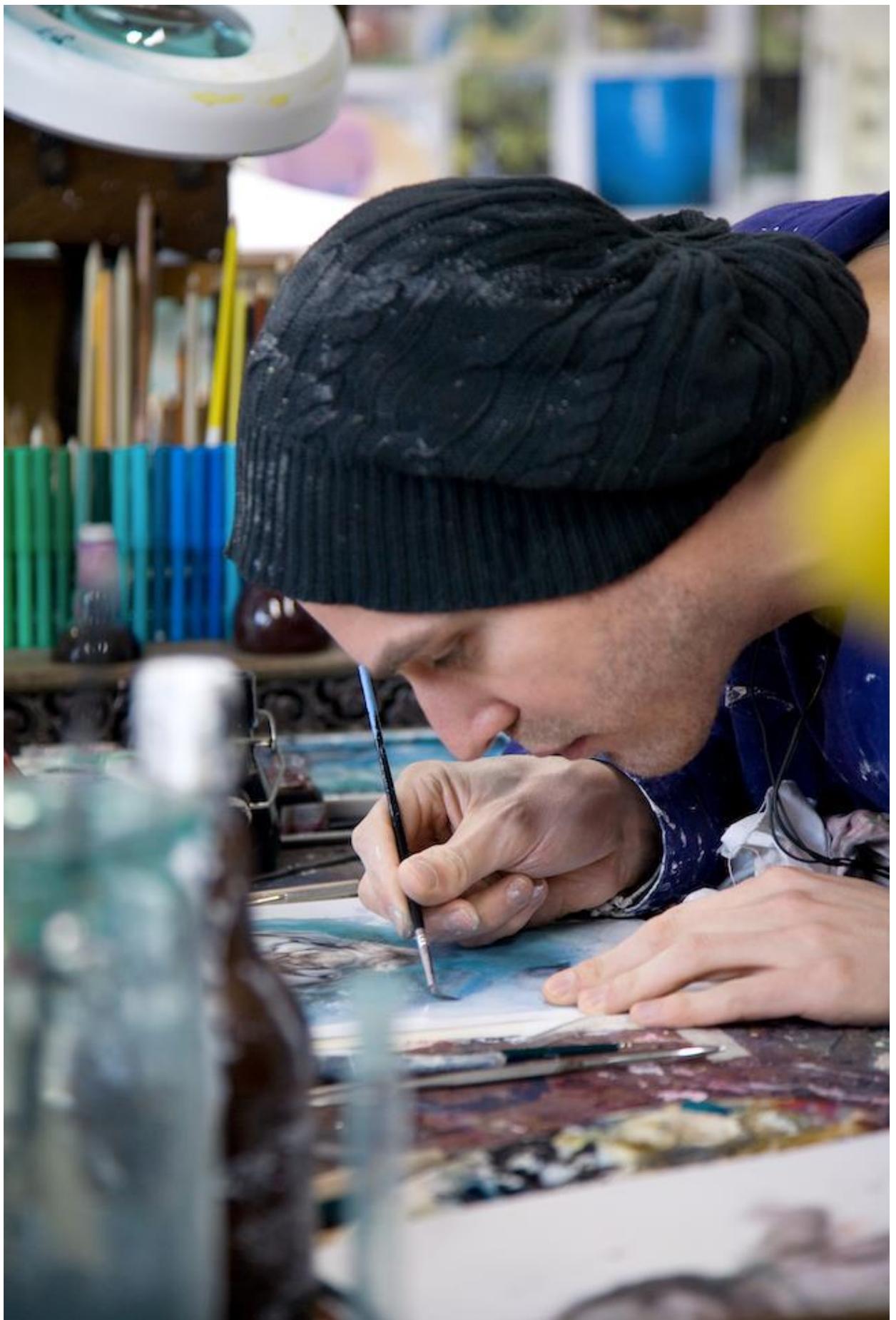
メグミオギタギャラリーでは、オランダ人画家クリス・ベレンスによる、超絶技巧の新作絵画が集結した“THE GREAT BELOW”を開催。

日本では7年半ぶりの個展にて、光と影が交錯する、幽玄な異生物の世界へと鑑賞者を誘う。

1999年、ベレンスはオランダ、スヘルトーヘンボスのアカデミー・オブ・アート&デザインでイラストレーションを修了した。2005年に、Jaski Gallery (アムステルダム)にて開催された初の大規模な個展で一躍名声を得ると、その後、東京・メグミオギタギャラリー(2013年、2016年)、ニューヨーク、ロサンゼルス、シアトル、シンガポールなど、世界中で展覧会を開催してきた。また、2011年に発表されたブロンディのアルバム「パニック・オブ・ガールズ」のカバーデザインも手がけるなど、幅広く活躍している。

ベレンスは、小さな紙片に細筆やインクで細部を描き、さらに別の紙を貼りつけて描くという、腱鞘炎に悩まされるほどの作業を繰り返しながら、作品の全体を緻密に構成していく。想像上の景色をありありと表出させる手描きの技術、ピントのずれやレンズの歪み効果により、郷愁を感じさせるような独自の表現、それらを支える高い集中力に加え、近年ではデジタル画像制作も自身の技法の一部としている。レンブラントやフェルメールの影響もうかがわせるベレンスの肖像画は、時空を超えて光と影が交錯する、幽玄な異生物の世界のよう。一方で、日本の伝統文化に見られる精霊信仰や幻想性を、インスピレーションの1つとして挙げている。

今展では、パネルにミクストメディアで描かれた新作約10点を展示。一筆ごとに、まるで細胞分裂を繰り返して成長していくようなベレンスの作品は、作家の内的世界と現実をつなぐ有機生命体として、鑑賞者に語りかける。自身の表現を追求し続け、試行錯誤の末にたどり着いた力作をお楽しみあれ。



あなたの内側からざわめきが生まれる時。何者かが物陰に隠れてあなたを見ているような、不  
穏な感覚を覚えた時。

少しの間、耳を澄ましてみてください。それは私たちかもしれません。私たちはあなたの目の  
端に住む生き物です。

私たちは甘美な欠落感であり、存在しなかった時間や場所への深い憧れです。私たちはここに  
います、これまでも、そしてこれからも。恐れる必要はありません。私たちは待っていました  
。あなたを見つけた今、私たちは決して離れません。手を取り、一緒に飛び込んでください。

ここはもうあなたの家。ようこそ、素晴らしき地下世界へ。

- クリス・ベレンス

クリス・ベレンス

会場：メグミオギタギャラリー 東京都中央区銀座2-16-12銀座大塚ビルB1

tel :03-3248-3405

会期：2024年4月5日(金) - 4月27日(土)

時間：12:00 - 18:00 日・月・祝日 休廊

展覧会リンク：<https://www.megumiogita.com/cb202404the-great-below>